

復興・再生に向けて、
ここから始めよう



今こそ!
産直の底力
100万人の食づくり運動

安心できる食と農を次代につなげるために

放射性物質、野菜からはほとんど「検出せず」に。 今後は産地の土壌対策に、全力をあげて取り組みます。

東京電力福島第一原発の事故による放射能汚染を受け、とくに成長期の子どもたちの、食品による内部被ばくを心配する声が多く寄せられています。パルシステムでは、可能な限りこうした声に応えるため、放射能による影響を低減させるための具体的な取り組みを行っています。現在、野菜からの放射性物質の検出はほとんどありません。代わって懸念されるのは土壌からの作物への影響。パルシステムはこの問題について生産者と話し合いを重ね、産地とともに農地から放射性物質を低減させるための対策を進めています。まずは秋冬に作付けする野菜の産地を中心に、土壌検査を始めています。

生産者からは「現在は『検出せず』が続いているが、今後の作付けが不安…」との声が。

これまでパルシステムでは、政府や自治体による検査を参考としながら、自主検査を行ってきました。現状では、福島県および東北・関東の各県で、野菜からの放射性物質の検出はみられなくなっています。今後懸念されているのが、土壌に残った放射性物質の作物への移行。食べる人の顔を思い浮かべながら、大切に作った野菜…。「本当に食べてもらえるのか? 食べてもらっていいのか?」など、生産者からも不安の声が上がっています。独自の農業削減プログラムを作り、産地をあげて環境保全型農業を推進するなど、なにより「食の安全」を重視してきたパルシステムの産直。それだけに生産者の不安もひとしおです。

※政府による放射性セシウムの暫定基準値
水田の土壌から玄米への放射性セシウムの移行の指標が0.1であることから、玄米中の放射性セシウム濃度が食品衛生法上の暫定規制値(500ベクレル/kg)以下となるよう田畑への作付けの上限値が設定されています。(2011年8月現在)

まずは土壌の現状を把握。 「政府基準の1/10以下」へ。

産地とともに進めていく対策の第一ステップは、作物を育てる土壌や土づくりのために畑に投入する堆肥、有機原料の放射能検査を行うこと。パルシステムでは検査にともなう費用を負担し、まずは秋冬に向け作付けを行う東北・関東の野菜産地を中心に、独自に検査をスタートさせました。検査結果の評価についても、政府が田畑への作付けの基準としている上限値5000ベクレル/kg以下(*)の1/10以下をパルシステム独自の値として設定。検査結果に応じて表面の土の除去、土壌改良などの対策を行っています。収穫した作物から放射性物質が検出されないレベルを追求していきます。

・検査結果と放射能低減の取り組みについては、進捗をホームページや別チラシ「産直通信」などで、継続的にお知らせしていきます。



◀「ひまわりによる除染プロジェクトを実施」
今年6月、佐原農産物供給センター(千葉県)にあるパルシステムの試験農場にて、土壌検査を実施。検査結果は作物にほとんど影響しないレベルでしたが、除染作物の効果測定のため、試験的にひまわりを作付けしました。10月に刈り取りを予定。放射能の影響が大きいとされる、根も含めて取り除きます。

「この状況が1年、2年と続かないよう、できることを少しでも」

農地からの土壌対策に本格的に取り組むにあたって、8月5日、関東近郊を中心に東日本の22産地の生産者が一堂に会し、土壌対策についての説明と意見交換を行いました。パルシステムからは検査の対象産地や検査方法、パルシステムとしての支援内容などを説明。生産者からは「ぜひ土壌の状態を把握したい」「果樹の圃場も検査を実施してほしい」など、積極的な要望が出され、実施に向けた確認がされました。

最後に佐原農産物供給センター(千葉県)の香取政典さんが「震災のみならず、原発事故により、これまで培ってきたものが一瞬にして壊されてしまった印象があります。小さいお子さんを抱えるお母さんの不安



佐原農産物供給センター(千葉県)の香取政典さん

な気持ちは十分にわかります。この状況が一年、二年と続かないよう、食べ物を生産する生産者として、産地を越えて一つになり、私たちができることを全力でやっていきましょう」と呼びかけました。

土壌改良に向けての具体的な取り組み

放射性物質による土壌の汚染レベルを下げるのに有効とされる対策を、各産地で進めています。これらの方法は、どれも土壌や農作物にとってよい影響をもたらすものです。効果が出れば、農業の削減と併せて、より安全に配慮した作物の栽培が可能となります。

●土壌改良剤を使用する

放射能対策に使われるカリやゼオライト肥料は、もともと土づくりの一環として使われている資材です。ゼオライトは放射性セシウムを取り込む性質があり、野菜などの作物に放射性物質が取り込まれにくくなると注目されています。また、表土に有機堆肥などの土壌改良剤を厚くのせる方法もあります。使用する堆肥や有機肥料原料については、使用状況についての実態を把握したうえで、適切なもののみを使用します。



●放射性物質を吸収しやすい作物(除染作物)を植える

ひまわり、菜種などの作物は、放射性物質を含め、土壌成分を速く吸収するとされています。後処理の問題などの課題はありますが、土壌の汚染が比較的高い場合、試みる価値があると判断しています。また、雑草についても一定の効果があります。パルシステムの産地は、除草剤不使用の産地が多く、日々の草取りでの効果が期待できます。



●表面の土を除去する、深く耕して希釈する

放射性セシウムはしばらくは表層に多く、時間とともに徐々に下へ移行します。そのため地表から3~5cmの土を除去、また地表から40~50cmと深くまで耕して希釈します。ただし、これ以上深い地点の土は作物の栽培に適さないことがわかっています。



「移行係数」が小さい作物を栽培する方法も

土壌の放射性物質がどの程度、作物に吸収されるのかを示したのが移行係数です。ほうれん草などの葉菜類では数値が小さく、根菜類では大きくなる傾向にあり、根菜類でも人参、大根などは比較的移行が少ないとされています。そのため、産地によっては移行係数の小さい作物に作付けを変更していきます。



放射能関連の最新情報を ホームページに掲載しています

自主検査の結果や、最近の農畜水産物の汚染状況などお知らせしています。

また、カタログと同時配送のお知らせチラシでも自主検査の結果をご報告しています。

ココをクリック



パルシステム 注文 検索

http://www.pal-system.co.jp/

商品情報ダイヤルへ

■原材料・賞味期間 ■次回掲載予定
■使い方・レシピ などに関するお問い合わせ

くらしの相談センター

0570-011-099

受付 月~金曜日 10時~17時

※ナビダイヤルは有料です。パルシステムの配送エリアからは固定電話の場合、一律3分約8.5円でご利用いただけます。携帯電話の場合は、ご本人の利用プランにより料金が異なります。なお、IP電話、PHSからは、つながりませんので、その場合は03-5292-8235までおかけください。

ご所属のセンターへ

■配達 ■交換・返品 ■請求関係 ■利用の休止・住所変更 などに関するお問い合わせ

パルシステム東京
足立センター ☎0120-010-530
江東センター ☎0120-581-244
港センター ☎0120-581-086
青梅センター ☎0120-176-565
府中センター ☎0120-444-494
東村山センター ☎0120-449-901
立川センター ☎0120-884-288
八王子センター ☎0120-414-404
世田谷センター ☎0120-449-986
多摩センター ☎0120-750-061
練馬センター ☎0120-560-551
池尻センター ☎0120-581-518
大田センター ☎0120-543-550
江戸川センター ☎0120-808-921
三鷹センター ☎0120-581-081
板橋センター ☎0120-916-071
柏江センター ☎0120-808-175

パルシステム神奈川ゆめコープ
相模センター ☎0120-868-014
大和センター ☎0120-868-014
麻生センター ☎0120-868-014
横浜南センター ☎0120-581-505
横浜北センター ☎0120-868-014
平塚センター ☎0120-581-257
横浜中センター ☎0120-868-014
藤沢センター ☎0120-581-226
宮前センター ☎0120-581-336
横須賀センター ☎0120-581-328
鶴見センター ☎0120-868-014

パルシステム千葉
柏センター ☎0120-393-581
印西センター ☎0120-584-741
市川センター ☎0120-560-170
習志野センター ☎0120-631-717

千葉センター ☎0120-663-618
松戸センター ☎0120-121-157
旭センター ☎0120-299-816
市原センター ☎0120-302-515
野田センター ☎0120-042-591
稲毛センター ☎0120-936-406

パルシステム埼玉
三芳センター ☎0120-148-502
白岡センター ☎0120-885-643
蕨センター ☎0120-313-502
大宮センター ☎0120-039-088
東松山センター ☎0120-868-635
入間センター ☎0120-864-106
草加センター ☎0120-922-170
川越センター ☎0120-513-418

パルシステム茨城
つちうらセンター ☎0120-169-500
みとセンター ☎0120-149-500
うしくセンター ☎0120-160-366
なかセンター ☎0120-849-900
かしまセンター ☎0120-157-085
ひたちセンター ☎0120-029-401
しもつまセンター ☎0120-279-500

パルシステム山梨
甲府センター ☎0120-28-5891
富士五湖センター ☎0120-32-1061
いちのみやセンター ☎0120-21-9898

パルシステム福島
いわきセンター ☎0120-460-460
郡山センター ☎0120-972-982

パルシステム静岡
富士センター ☎0120-868-014

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。

http://www.pal-system.co.jp/